

3/2~4 スマートエネルギーweek 2016 国際風力発電展に東洋建設初出展、他セミナー等



近本東洋建設土木企画部部長

リードエグゼクティブが、『スマートエネルギーweek 2016』を3月2日(水)~4日(金)に東京・有明の東京ビッグサイトで開催し、世界中から約6万3千名が来場し、



石原東京大学院教授

近本武東洋建設株式会社。会場は大盛況となった。スマートエネルギーに関する商談のための専門展で、1430社が出展する大規模なものであり、最先端の再生エネルギー関連のラウンドテーブル、「国際太陽電池展」のほか、「水素燃料電池展」「二次電池展」「バッテリージャパン」また、「国際バイオマス発電」など注目される全9展を開催。

そのうちの「第4回国際風力発電展」に、東洋建設が、初出展をして、「AUGUST EXPLORER」(8月に就航予定の全長90mの自航式多目的船)の、200分の1の模型を展示して来場者と商談した。3カ月程度の外洋作業に対応可能な航海能力と、最新の定点保持機能、9.5平方mの広いデッキスペース、定員50人を超える居住区、海水淡水化装置等により、建設作業のみならず調査業務等、様々な作業に従事することができるという。



「第4回国際風力発電展」の様相

土木事業本部土木企画部長が「この作業船で資材運搬、浮体の据え付けなど幅広く対応できます。民間・官庁など多くのお客様に使っていただくことを考え、今回初めて出展しました。商談に来る中には外国の方も多く、マーケットのニーズの把握、技術の情報交換にとっても適しています。今後、さらに海底資源調査にも民間の作業船の活用を考慮して頂けたらと思います」と意気込みを話した。

会場入り口には、風車およびフロンドファームの認知や法律に従って設計されているか等の第三者評価機関となる「(財)日本海事協会(CESAS)」も出展するなど、風力発電に関する幅広い情報を得られる場となっていた。

また会議棟では、牛山宗利工業大学学長などのアドバイスによるプログラムで、連日各分野の最新の講演が行われた。2日午後4時半からは、専門技術セミナープログラムのうちの1つで、石原孟東京大学大学院工学系研究科教授が、浮体式洋上風力発電の最新技術動向について講演した。



専門技術セミナーの様相

の製造費は従来の方法に比べ48%のコストダウンを実現しました。コスト削減は世界共通の課題であり、2018年までの実用化に向け、実証研究の目標を順調に達成しつつあります」と締めくくった。

他、3日に、島谷学五洋建設土木本部土木設計部担当部長による着床式洋上風力発電の施工技術に関する講演や、安田陽関西大学准教授による風力発電の系統連系問題の国際動向についてなど多数のプログラムが行われたりと、盛りだくさんであった。